

## 保健学習・保健指導

### 趣旨

心身の健康を保持増進するための実践力の育成を目指した保健学習・保健指導の進め方について協議する。

### 協議題

- 1 実践力を育てるための保健学習の教材・教具の開発や指導方法の工夫について
- 2 児童生徒の実態や現代的な課題に対応した保健指導の進め方について
- 3 各教科、特別活動、総合的な学習の時間との関連を図った指導計画の作成、実践及び改善について

## 第 2 分科会

発 表 主 題	発 表 者	
	所属名及び職名	氏 名
生涯現役元気村の基礎となる望ましい健康習慣を 実践できる児童の育成を目指して  ～西米良村立村所小学校における実践を通して～	宮崎県宮崎市立大淀中学校 養護教諭	川 畑 久美子
「健やかに生きるための実践力」を育むために  ～学校・家庭・地域社会が連携した学校保健活動～	長崎県佐世保市立相浦小学校 高島分校 養護教諭	永 田 美 穂
予防的視点からの保健指導  ～心の安定のための取組～	佐賀県立唐津青翔高等学校 教諭	草 場 洋

役 員	所属名及び職名	氏 名
指 導 助 言 者	宮崎県都城市立西小学校 校 長	北 村 俊 二
司 会 者	宮崎県西都市立三納小学校 教 頭	安 藤 利 光

# 質疑応答及び研究協議

## 1 質疑応答

[質問1] 川畑先生の発表について

ア 家庭の教育力について二極化があると言われていましたが、児童の意識など含めて、実践後に変化があればお聞きしたい。

イ 学校保健委員会に児童が参加していることに驚き、新鮮に感じました。その様子をもっと詳しく教えてほしい。

(長崎県 田平東小 宮村)



### 【回答】

ア 二極化については、なかなか解消は難しく、祖父母の力をお借りすることにした。小規模校だったが、むし歯の治療に行けない家庭も固定化され、3年目にようやく治療に行くことができた。今後は、やはり祖父母や地域の力を借りながら実践することが大切だと考える。

イ 児童の参加は効果的だと言える。保護者にも反響があり、興味深く聞いていただいた。児童の発表については、委員会担当の教諭との協力体制の中、養護教諭の方で事前資料等の準備を行った。児童自身は、発表集会の経験もあり、パソコン等を使った発表などに慣れているといった状況もあった。

(発表者 川畑)

[質問2] 永田先生の発表について

ア 同じように島にある小規模校に勤務しているので、参考になった。特に、別紙資料P7の「メディアと健康」については、本校でも昨日の足立先生(全体会のシンポジストの方)の話を保護者にも聞いていただき、テレビや

ゲームを長時間している時の脳への影響や朝ごはんの大切さについて、危機感を持っていただいたが、子どもたちにはどのように指導されているのか教えてほしい。

イ 生活習慣チェックのために実践されている「いきいきカード」のチェックは、教師が作成しているのか、それとも子ども自身が行っているのか教えてほしい。

(宮崎県 島之浦小 西野)

ウ 別紙資料P6にある「テレビせんげん」について、内容を詳しく知りたい。

(宮崎県 本城小 吉松)



### 【回答】

ア P7の3、4年生の学級活動では、学級担任のみで指導している。脳が働いている時と働いていない時などを科学的根拠に基づいて、写真などを使って子どもたちに指導した。視力についても、小さなものを見続けていると、目が疲れるということを話している。

イ 「いきいきカード」については、月ごとではないが、年に何度か実施し、集計は教師が行い、パソコンで分析結果を出している。子どもたちは、その結果を見て、自分自身が気づいたことや目標をカードに記入している。保護者には、学校保健委員会や来校時に見ていただく機会を設けている。

ウ 「テレビせんげん」については、子どもたちに、「テレビは好きなだけ見てもよいのか?」「2時間だけ見よう。」といった話をした後に「減らすためにはどうすればいいのか?」考えさせた。

(発表者 永田)

昨年1年生では、T.Tで授業をして、2時間以内にするためにはどうしたらよいかを自分の言葉で書かせてみた。その際、保護者にも協力していただいた。例えば、「休日のみ」や「勉強のときは消す。」といった内容だった。チェックカードは、一週間ごとにチェックをして呼びかけを行った。

(発表校 学級担任 久保)



[質問3] 草場先生の発表について

ア 子どもたちとの相談方法として、小学校では、絵画療法については効果があったように思う。現在の中学校では、リラックスした状況で対応するように心がけている。高等学校については、支援学校の美術教育で実施されていることを知っていたが、先生の学校でステンドグラス法やマンダラぬり絵、コラージュ等を実践されていることに対し、大変興味深く、期待している。実際にやってみられてどうだったかお聞きしたい。

(宮崎県 綾中 横山)



## 【回答】

ア 1年目は、保健主事として、2年目は、学級担任ではなく第2年学年主任として保健部門にも残していただき、全職員で取り組んでいる。管理職を含む学校全体の取組として発表している。指定校だけが実施しているのではない。数値としては答えられないが、生徒指導面でも問題は抱えている状況はある。教師が上からものを言うような方法が通用しない状況もある。

しかし、生徒自身が輝く時もある。例えば校内駅伝大会では、一生懸命取り組む子どもたちである。5年前からの取組であるが、そのような方法を通して、私たち教師が子どもたちに共感したり、言葉かけをすることによって、これから生徒たちが経験するであろう色々な場面等で自己肯定感を持てるようになってくれるのではないかと考える。また、これをきっかけに教育活動につなげていけるのではないかと期待している。結果はなかなかだが、継続していくことが大切である。

(発表者 草場)

## 2 研究協議

時間の都合により質疑応答のみであった。

# 指導助言

宮崎県都城市立西小学校  
校長 北村 俊二

九州地区健康教育研究大会は、各県の取組を各学校へ持ち帰り、教育に生かすことができる有意義な機会である。3名の先生方の実践における取組の良さは、以下の通りである。



「生涯現役元気村の基礎となる望ましい健康習慣を実践できる児童の育成を目指して」というテーマで発表された西米良村立村所小学校における取組について

村所小の健康教育の視点が、地域の特性を踏まえて地域の健康教育課題と合致している。ヘルスプロモーションの理念に基づいて、学校と地域行政が役割を分かち合いながら、健康教育を推進していこうとするその着眼点と取組がよい。早期に自立を要する環境にある子どもたちにとって喫緊の課題に着眼して取り組んだところに良さがある。

児童の健康行動に関する実践力の定着を目指している。それに基づいて保健学習や保健指導における指導方法の工夫がなされている。例えば、学習内容に関する児童のアンケート・プレゼンテーション・科学的な資料等具体的教材・教具を活かし、学ぶ意欲を高めている。自己の健康課題に気付かせながら実践化を促している。保健学習において重視されるのは、習得した知識を、活用させる場面と保健学習以外の教育活動と関連させながら教育実践に取り組んでいる。

養護教諭の機能を充分発揮しながら、学校全体で健康教育推進充実に取り組んでいる。小学校における健康教育の実施主体者は学級担任が主であるが、養護教諭の積極的な関わりによっ

て保健学習や保健指導のバランスのとれた学習活動が保証されている。反面、養護教諭に期待される役割が多様化し、年々負担が重くなる傾向にある。今後は養護教諭が健康教育のコーディネーターとしての役割を果たし、学校全体で健康教育に関する役割を分担していくことが今後の課題である。良さ～を引き続き村所小で継続されることを願う。

「健やかに生きるための実践力」を育むためにというテーマで発表された佐世保市立相浦小学校高島分校における取組について

小規模校の特色をメリットとして捉え、地域ぐるみで取り組み、十分に成果を上げている。人的資源を地域ぐるみで活用しているという素晴らしい良さがある。学校で取り組んだ指導内容の定着化・実践化を図るために積極的に地域の教育力を活用している。また児童が保育所を訪問して紙芝居を行うなど、学校で身に付けた知識や高めた健康行動への実践意欲を発揮する場を地域の中に求めようとしている。

児童の行動変容を促し、実践力を身に付ける保健学習・保健指導の狙いが明確である。一人ひとりの児童をしっかりと把握し確実に行動変容に繋がるように、学びの習慣化や指導案や指導資料を整理して授業の質の向上に取り組んでいる。保護者参加型の学習機会を積極的に設けている。

PDCAサイクルで健康教育に関する取組をしっかりと見届けている。学校における健康教育の取組状況を振り返り、学校保健委員会や保護者会・地域懇談会で改善策について協議を行うなど、取組そのものの質を向上させると同時に学校の説明責任を果たしている。このような取組の積み重ねが地域から信頼される学校づくりに資するものである。

「予防的視点からの保健指導」というテーマで発表された佐賀県立唐津青翔高等学校における取組について



心理的に不安定な時期にある生徒の心の在り様を科学的手法を用いて分析、客観的に把握し、さらに専門家と連携しながら合理的指導を行っている。社会への自立が出口のところにいる高校生にとって、自己肯定感を高めながら、心の安定を図っていくことは大切なことである。日常の観察のみでは難しい高校生の心の在り様をスクールカウンセラーの協力を得ながら、ストレスチェックを活用して、すべての生徒の心の在り様を把握し、個々の特性に応じた合理的な指導に取り組んでいる。

ステンドグラス・マンダラ・コラージュの芸術療法で、心理的カウンセリングに取り組んでいる。ストレスの軽減や心的エネルギーの向上に取り組み、成果を上げている。また、これらの取組により生徒自身にも自らの心の状態に気付き、心の安定を図ることの大切さやスキルの必要性を実感し、実践意欲を高める取組である。

今後とも継続して予防的な保健指導に取り組もうという学校全体の積極的な姿勢がある。取組の成果をしっかりと検証し、更なる充実を図っていこうとする学校の姿勢は、今後の生徒へ生き抜く力を育てていくことができる。

## 第2分科会の研究協議題について

健康教育・保健学習に時間を取るの難しいが、限られた時間の中での指導の充実を図る必要がある。専門機関等と連携を図りながら、例えば科学的な根拠に基づいた教材・教具を整備していき、効果的に活用することが大切である。保健学習において習得活用する場面を学習活動の中に位置付けていくことが大事である。健康行動に関する実践力を高めるには、習得した知識を活用する場面を繰り返し経験させることが必要になる。保健学習3・4年生においては2年間で8時間、5・6年生においては2年間で16時間しかない。習得活用の場面を保健学習の中だけで確保するは厳しい。意図的計画的に学びを活かす場面を作っていく必要がある。保健指導・特別活動・総合的な学習の時間を有機的に機能させ実行させていくことが大切である。健康教育カリキュラム・位置付けを明確にしていくことが大切である。自校の健康教育を振り返る機会にしてほしい。今後も、健康教育を充実する核になり、取り組んでほしい。

